



1 SN03 焼土遺構遺物出土状況（西から）



2 SKP210 柱穴様ピット遺物出土状況（南から）



S I 16 · 17 豎穴建物跡出土遺物



S Q06 集石遺構、S K05・18・20 土坑出土遺物



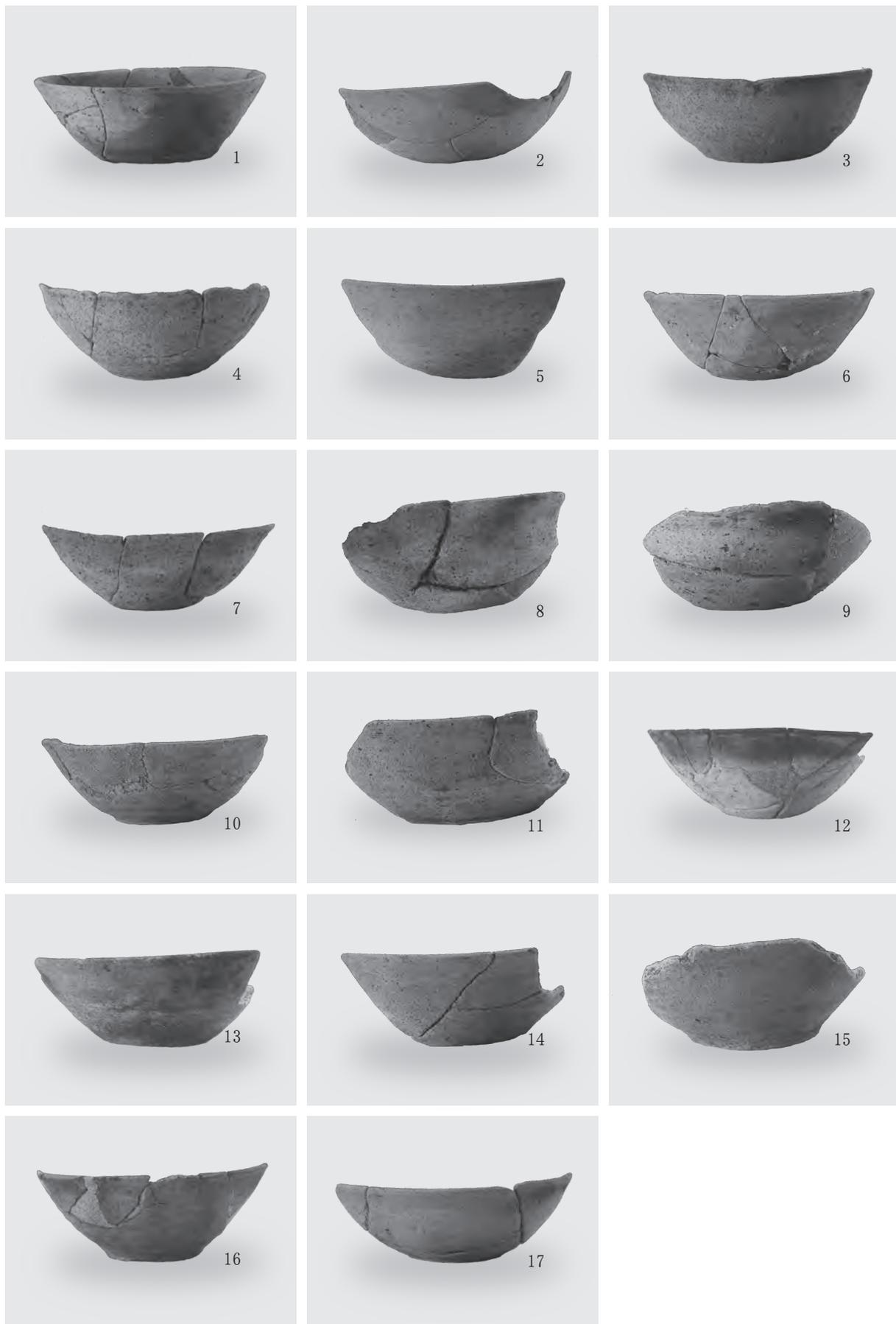
S K 21 土坑、S N 03 焼土遺構出土遺物



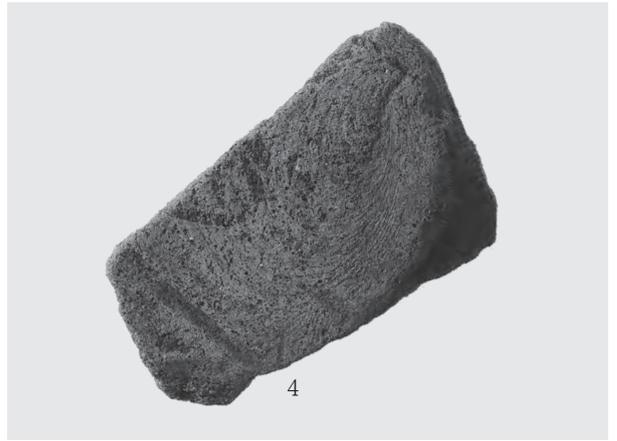
S N03 烧土遺構出土遺物



S N09 焼土遺構、S R11 土器埋設遺構、S K P 188・210 柱穴様ピット出土遺物



遺構外出土遺物（1）



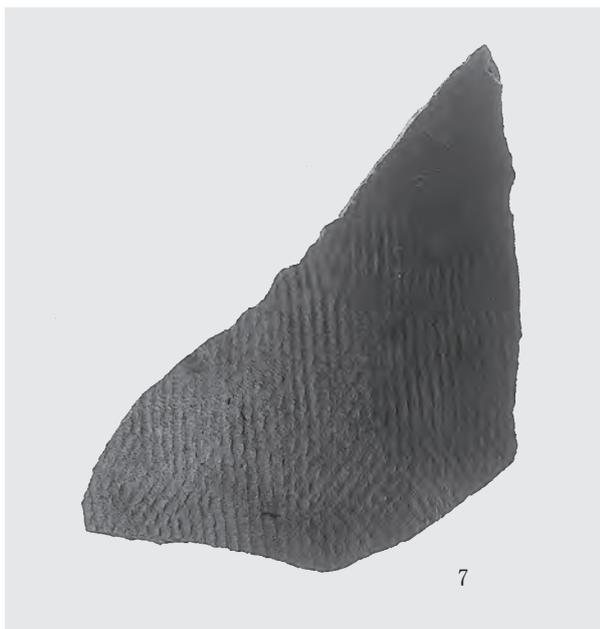
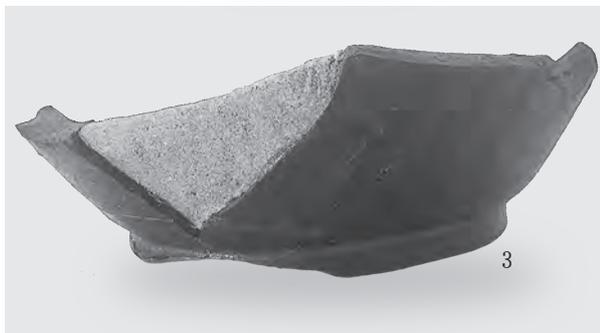
遺構外出土遺物 (2)



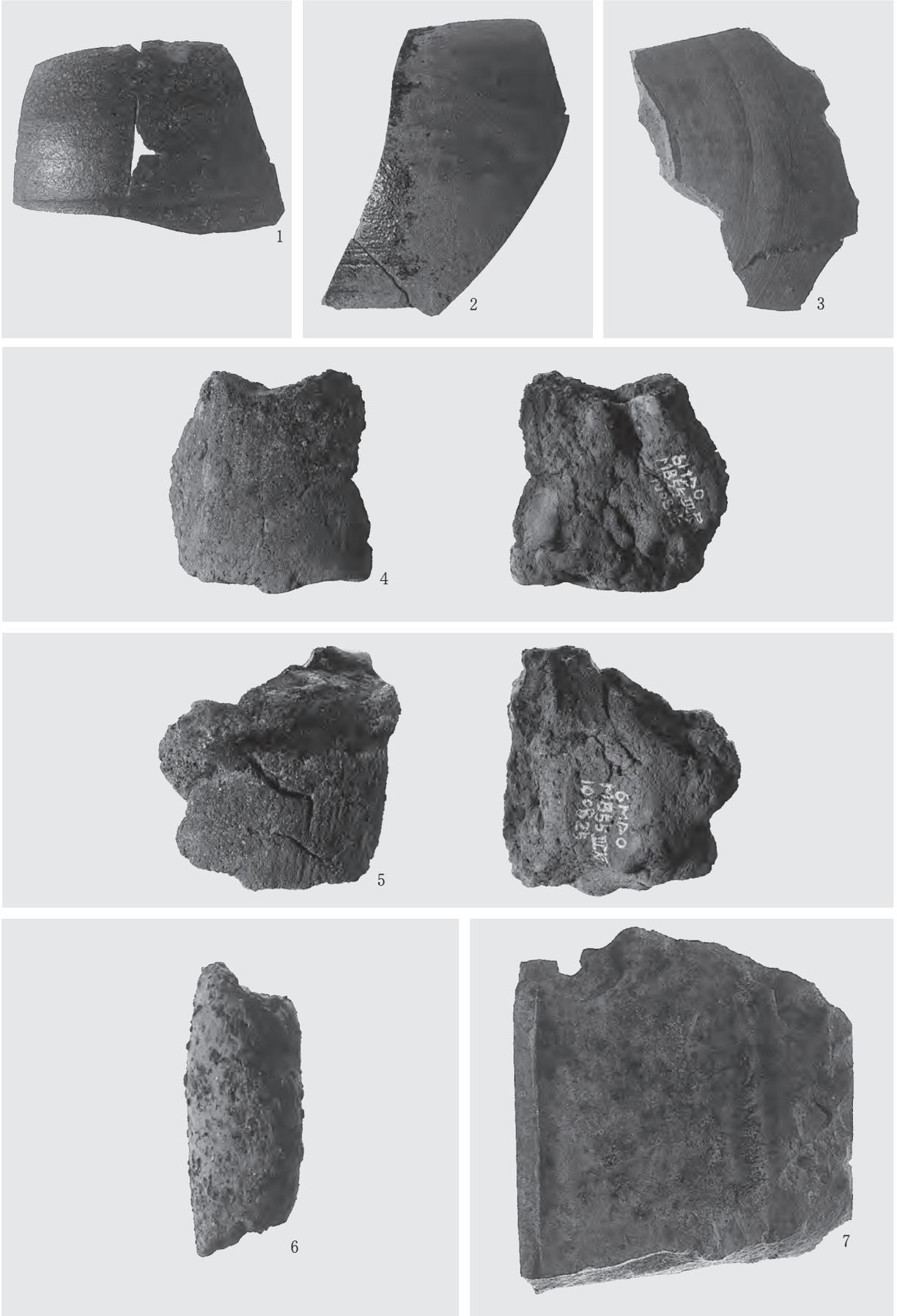
遺構外出土遺物(3)



遺構外出土遺物（4）

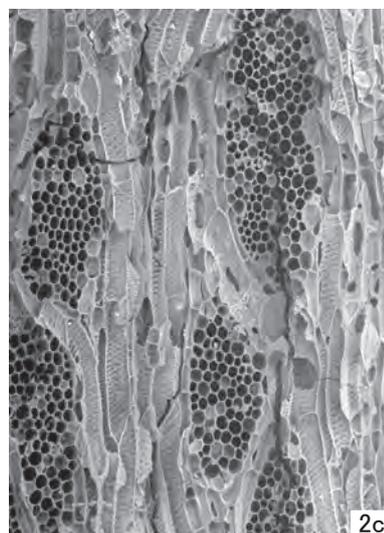
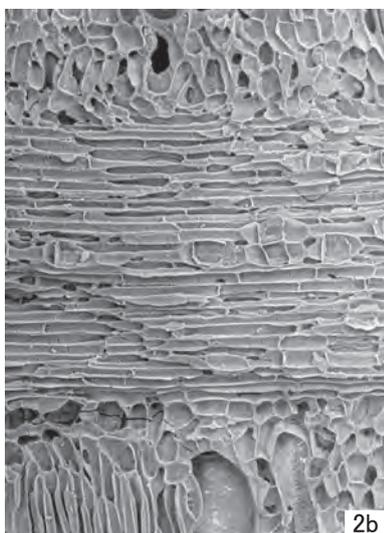
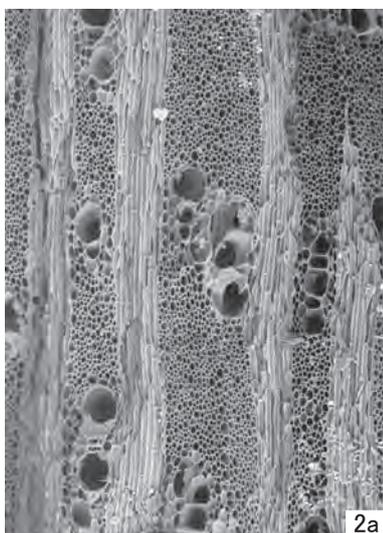
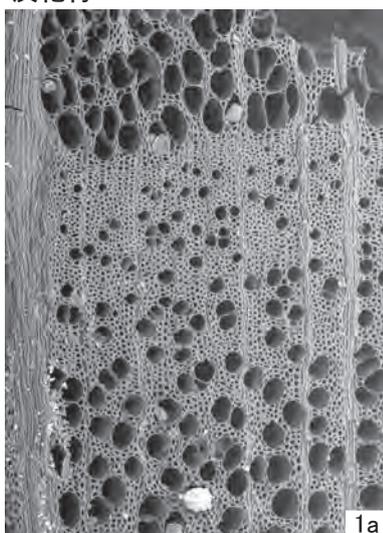


遺構外出土遺物(5)



遺構外出土遺物 (6)

炭化材



1.ブナ属(SI16竪穴建物跡;RC455)  
2.エノキ属(SN07焼土遺構;RC159)  
a:木口,b:柁目,c:板目

200  $\mu$  m:a  
200  $\mu$  m:b,c

報 告 書 抄 録

ふりがな	まえだおもていせき							
書名	前田表遺跡							
副書名	一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	IV							
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第469集							
編著者名	山田徳道							
編集機関	秋田県埋蔵文化財センター							
所在地	〒014-0802 秋田県大仙市払田字牛嶋20番地 TEL0187-69-3331							
発行機関	秋田県教育委員会							
所在地	〒010-8580 秋田県秋田市山王3丁目1番1号 TEL018-860-5193							
発行年月日	西暦2011年7月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'〃	東経 °'〃	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
まえだおもていせき 前田表遺跡	あきたけん 秋田県 にかほ市 りょうぜんじ 両前寺 あざまえだおもて 字前田表 37-1外	05214	214-35-36	39° 17' 78"	139° 58' 66"	20100803 ) 20100929	1,100㎡	一般国道7号 仁賀保本荘道 路建設事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
前田表遺跡	集落跡	平安時代	竪穴建物跡	2棟	土師器	遺構から土師器が多量 に出土し、集石遺構か らは約1,800個の川原 石とともに12世紀頃 の珠洲系陶器の四耳壺 が検出された。		
			集石遺構	1基	須恵器			
			土坑	4基	四耳壺			
			焼土遺構	7基				
			土器埋設遺構	1基				
要約	<p>遺跡は仁賀保丘陵地の縁辺部に立地し、竪穴建物跡や集石遺構など平安時代後期から末期における人々の活動の痕跡が残されていた。</p> <p>検出された遺構は、竪穴建物跡2棟、集石遺構1基、土坑4基、焼土遺構7基、土器埋設遺構1基などで、平安時代の遺構が主体となっている。また、出土した遺物は平安時代の須恵器・土師器、珠洲系陶器の四耳壺などがあり、そのうち最も多いのは土師器である。今回調査の対象になった丘陵地の尾根部一帯は、平安時代の後期には集落の中で何らかの生産を行う場として、その末期には宗教的な空間として利用されていたことが考えられる。本調査区は丘陵地縁辺部にある前田表遺跡南西端の一部分を調査したにすぎず、居住域は東側丘陵地に広がるものと推定される。</p>							



秋田県文化財調査報告書第469集		
前 田 表 遺 跡		
—一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業に係る		
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ—		
印刷・発行		平成23年7月
編 集		秋田県埋蔵文化財センター 〒014-0802 大仙市払田字牛嶋20番地 電話(0187) 69-3331 FAX(0187) 69-3330
発 行		秋田県教育委員会 〒010-8580 秋田市山王三丁目1番1号 電話(018) 860-5193
印 刷		株式会社 三森印刷





